

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回行田市地域公共交通会議	
開 催 日 時	令和6年5月8日（水） 開会：10時00分 閉会：11時25分	
開 催 場 所	行田市商工センター4階 403研修室	
出席者（委員）氏 名	横田英利（会長）、田沼健一、鈴木貴大、梁瀬高志、長島 豊、明野真久、関根肇、高鳥和子、小暮福三、関口正彦、坂井貴夫（随行：増野美七海）、齋藤宏幸、島根 淳、鎗木幹矢、青山義徳、近藤隆俊（代理：神宮一雄）、岡登圭太、森原秀敏 ※敬称略	
欠席者（委員）氏 名	藤田 貢、飯塚光弘、荒舩慎一、田尻 要 ※敬称略	
事 務 局	【交通対策課】島田課長、瀬場主幹、伊藤主査、廣兼主任 【危機管理課】富澤主事	
会 議 内 容	議 事 （1） 副会長及び監事の指名について （2） 令和5年度行田市地域公共交通会議決算（案）について （3） 令和6年度行田市地域公共交通会議予算（案）について （4） 令和5年度市内循環バスおよびデマンドタクシーの運行実績について （5） 市内循環バスのダイヤ改正について （6） 乗合型AI オンデマンド交通の導入について	
会 議 資 料	・ 令和6年度第1回行田市地域公共交通会議次第 ・ 行田市地域公共交通会議設置要綱 ・ 令和5年度行田市地域公共交通会議決算の承認について〔資料1〕 ・ 令和5年度行田市地域公共交通会議歳入歳出決算監査報告 ・ 令和6年度行田市地域公共交通会議予算の承認について〔資料2〕 ・ 令和5年度市内循環バスおよびデマンドタクシーの運行実績について〔資料3〕 ・ 市内循環バス（南大通り線コース）のダイヤ改正について〔資料4〕 ・ 乗合型AI オンデマンド交通の導入について〔資料5〕	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者1名	
議 事 録 の 定 確	確 定 年 月 日	主 宰 者 氏 名
	令和6年6月19日	横 田 英 利

発 言 者	会 議 の 経 過 （ 議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 結 論 等 ）
司 会	1. 開会 ・ ただいまから「令和6年度第1回行田市地域公共交通会議」を開会する。 ・ 当会議は、4月末日をもって全ての委員の皆様の任期が満了となり、本日5月8日付けで新たな任期に入ることとなる。今期もよろしく願います。 ・ それでは、この会議の公開に関する取り扱いについて説明する。 本日の会議は、会議の公開により公平かつ円滑な議事運営に支障を生ずると認められる内容ではないことから、行田市地域公共交通会議設置要綱第6条第5項に基づき、公開とする。 また、会議録は発言者を明記の上、要点筆記で作成し、庁内にある市政情報コーナー及び市のホームページにおいて後日公開するので、あらかじめご了承ください。 ・ 次に、会長の就任について報告する。 行田市地域公共交通会議設置要綱第5条第2項では「会長は第3条1項1号に掲げる者をもって充てる」とされており、第3条第1号では「行田市市長又はその指名する者」とされている。 同条で掲げる「指名する者」について、市長が横田英利副市長を指名したので、これをもって、本協議会の委員および会長に横田副市長が就任することを報告する。 ・ 本日、藤田委員、飯塚委員、荒船委員、田尻委員においては、所用により欠席との連絡をいただいているので、あわせて報告する。
会 長	2. 会長あいさつ （会長あいさつ）
委 員 事 務 局	3. 委員自己紹介 （各委員がそれぞれ自己紹介） （事務局自己紹介）
司 会	4. 議事
議 長	・ 次第4の議事に入る。 ・ 行田市地域公共交通会議設置要綱第6条第1号により、議長は会長とされていることから、ここからは横田会長に進行をお願いします。 （1）副会長および監事の指名について
事 務 局	・ 次第4の議事（1）の副会長および監事の指名について事務局より説明をお願いします。 （副会長及び監事について説明）
議 長	・ ただいまの説明のとおり、行田市地域公共交通会議設置要綱に沿って、会長より副会長を指名する。

議 事 務 局 議 高 鳥 委 員 議 議 議 議 事 務 局 議 議 議 議 事 務 局 議 議 議	長 局 長 長 長 長 局 長 長 局 長 長 局 長 長	副会長には森原委員、監事には高鳥委員と関口委員を指名する。 ・ 何か意見や質問はあるか。 (意見・質問なし) ・ 異議なしとして、承認することとする。 (2) 令和5年度行田市地域公共交通会議決算(案)について (3) 令和6年度行田市地域公共交通会議予算(案)について ・ 次第4の議事(2)の「令和5年度行田市地域公共交通会議決算(案)について」及び(3)の「令和6年度行田市地域公共交通会議予算(案)について」は関連があるため一括議題として、事務局より説明をお願いする。 (資料1及び資料2に基づき説明) ・ なお、令和5年度行田市地域公共交通会議決算(案)については、過日に会計監査が終了しているため、高鳥監事に監査報告をお願いする。 (監査報告) ・ 何か意見や質問はあるか。 (意見・質問なし) ・ 異議なしとして、承認とする。 (4) 令和5年度市内循環バスおよびデマンドタクシーの運行実績について ・ 次第4の議事(4)、「令和5年度市内循環バスおよびデマンドタクシーの運行実績について」事務局より説明をお願いする。 (資料3に基づき説明) ・ 何か意見や質問はあるか。 (意見・質問なし) ・ 異議なしとして、承認することとする。 (5) 市内循環バスのダイヤ改正について ・ 議事4(5)「市内循環バスのダイヤ改正について」事務局より説明をお願いする。 (資料4に基づき説明) ・ 何か意見や質問はあるか。 (意見・質問なし) ・ 異議なしとして、承認することとする。 ・ また、事務局の説明にもあったが、実施内容については、運行事業者である朝日自動車株式会社との最終調整を経て決定することとする。 本日、説明したものから多少の変更する可能性があることをあらかじめご了承くださいようお願いします。 (6) 乗合型A I オンデマンド交通の導入について
--	---	---

議 長	・ 議事4（6）「乗合型A I オンデマンド交通の導入について」、事務局より説明をお願いする。 （資料5に基づき説明）
議 長	・ 意見や質問はあるか。
関 口 委 員	・ 乗降場所は、現在登録のあるデマンドタクシーの乗降場所を利用することだが、行田市乗合型A I オンデマンド交通もデマンドタクシーと同じように自宅からデマンドタクシーの乗降場所まで行けるという認識でよいか。
事 務 局	・ 現在のデマンドタクシーは自宅から利用できるため、資料に記載はないが、行田市乗合型A I オンデマンド交通についても、自宅から行くことができるように考えている。
関 口 委 員	・ 市内循環バスの利用者の中には、自宅からバス停までの距離が長く、時間がかかる人がいる。 他市町村で実施されている、自由に降車できる区間を設けて、自宅の近くで降車できるようにすれば、デマンドタクシーの利用率が半分くらいになると思う。 A I という言葉自体の聞こえは良いが、説明があった台数で実施したときに、デマンドタクシーと同程度の待ち時間で利用できるのか、あるいは予約時に、台数が少ないことを理由に断られ、今まで以上の待機時間が発生するのではないかと思うので、どう考えているのか回答をお願いする。
事 務 局	・ まずは4台で始めて、利用状況などの実績を踏まえながら、必要に応じて台数を増加することを検討していくべきと考えている。 先ほどの資料5の説明の中で、1時間あたり25名ぐらいの方が市の公共交通機関を利用しているという実績データがあると伝えた。1時間で25名であるが、10分や20分の間で25名全員が乗り合わせることはないと考え、まずは4台で運行を開始しようと思っている。 また、実証運行という形で実施していく中で、市民や利用者からの意見等を参考にして、台数だけでなく、利用状況や利用時間帯などを勘案しながら運行内容も同様に見直していきたい。 そのため、行田市乗合型A I オンデマンド交通が行田市の公共交通として確立するまでには、少し時間がかかるかもしれないが、その間に見直しなどを行いながら、行田市に合ったオンデマンド交通を確立したいと考えているので、実際に運行が始まった後も皆様からの意見を頂戴したい。
関 口 委 員	・ 1月に行田市乗合型A I オンデマンド交通の運行が開始となる時点で、東循環コース、北東コース、北西コースはなくなるという認識でよいか。
事 務 局	・ 令和7年1月に行田市乗合型A I オンデマンド交通を運行開始予定だが、令和7年3月までは、東循環コース、北東コース、北西コースはそのまま運行する予定である。
関 口 委 員	・ つまり、3ヶ月間は並行するという認識でよいか。

事務局	そのとおりである。 ただし、デマンドタクシーは、行田市乗合型A I オンデマンド交通が令和7年1月の運行開始に合わせて移行していく。
議長	他にあるか。
長島委員	新しい公共交通のイメージはできるが、その前行田市乗合型A I オンデマンド交通導入時の収支見込みは、例えば今までより10%増える、あるいは10%削減できるといったこと、または運賃が決まっていない状況ではあるがどのように推移していくのか、ある程度の見込みを示していただきたい。
事務局	- 経費実績は、デマンドタクシーは年間で約2,800万円から3,000万円ほど、循環バスは1路線につき、約1,000万円となっている。デマンドタクシーと廃止する循環バス3路線を合計すると約5,800万円から6,000万円ぐらいの経費の削減になる。 - 支出については、令和6年度予算ではあるが、行田市乗合型A I オンデマンド交通事業として令和7年1月から3ヶ月分の運行経費を含み約3,800万円を計上しており、差額の約2,000万円の経費削減を見込んでいる。
長島委員	今の回答は、年間ベースでよいか。
事務局	まずは3ヶ月間の運行ベースである。
議長	他にあるか。
鈴木委員	今の説明について、行田市乗合型A I オンデマンド交通の経費が3ヶ月分で3,800万円、削減額は1年単位で計算しているため、同じ1年単位で揃えないと、判断つきにくい。
事務局	3,800万円は、令和6年度予算額であり、初年度ということからシステムの導入経費等と1月から3ヶ月間の運行経費を合わせた額である。 まだ運賃収入等の金額が定まっていないため、おおよその額を見込めないことや運行事業者等が決定しないと年間の運行経費等が見込めないため、現段階では年間ベースでの比較ができていない。
鈴木委員	事業者側は商売をする立場なので、何か事業をやるときは経費や収入額から商売として成立するか、費用と効果のバランスがとれるかどうかを判断して、さらに1年や3ヶ月ではなく、5年、10年と続けていくためにはどうかというところまで考えている。 今の回答だと、3ヶ月以降の令和7年度から先はわかりませんと聞こえる。その中で賛成してほしいと言われても困る。 ここにいる会議の参加者が賛成し、地域公共交通会議で承認を得たならば、我々がその事業計画に賛成したことになるため、もう少し丁寧な説明をお願いしたい。

事務局	- 説明が少し不十分な部分があったため、改めて説明をさせていただく。 - 資料５の８ページの支出状況のグラフでは、黄色がデマンドタクシー、青色が循環バスの補助額である。 循環バスは、６路線で約１億円の経費がかかっており、先ほど廃止を予定している路線の経費は１路線につき約１,０００万円と言ったが、１,５００万円弱かかっているため、３路線分で４,５００万円である。 - デマンドタクシーについては、３０００万円弱かかっている。令和６年度については、予算であるが１２月までの運行期間である９ヶ月分で見ているため約２,１００万円となっている。 - これらの実績を参考数値として、デマンドタクシーの補助額を３,０００万円とすると、３,０００万円と４,５００万円の合計約７,５００万円分が単純計算で減る分と思っている。 - 一方、行田市乗合型ＡＩオンデマンド交通の３,８００万円の経費については、運行経費は今年度３ヶ月分を予定し、これに加え運行を開始するにあたり、地域の皆様への説明会やパンフレットなどを作成するための経費等を含めた金額となっている。 運行経費は、補助金として循環バスと同じ仕組みで支出したいと考えている。 これから運行事業者の選定に入るため、実際の金額はまだわからないが、補助金は３ヶ月分の経費に加えて、初年度に係るシステムなどの導入経費も含め約３,１００万円と見ている。実際は、この額がもう少し圧縮されると思うので、３ヶ月分で２,５００万円と仮定する場合、年間で約１億円になる。 あとは、運賃収入がいくら入るかによって、差は縮んでくるのではないかと思う。 今後の見通しとしては経費を圧縮できると考えているが、まだ運行事業者が決まっていないので、運行経費についてはイメージでしかない。 しかし、採算が取れるように、あるいは今までと同じくらいの経費をかけることになったとしても、今までのような「空気を乗せて運んでいる」や「使い勝手が悪い」などの声を聞かないようなオンデマンド交通を目指していきたいと思っている。 これらを勘案して、循環バスの３路線を廃止して、今のデマンド交通を乗合型のオンデマンド交通へと転換したいと考えている。 しっかりした数字を提示できず申し訳ない。
鈴木委員	- 導入経費が約３,０００万円とのことだが、２年目以降はこの導入経費は一切かからないという認識でよいか。 - それとも２年目以降も継続してかかってくるものがあるのか。

事務局	・ 3,100万円については、システムの導入経費、運行経費、電話等を受けるオペレーターにかかる経費等を3ヶ月分含んでいるものであり、システムの初期導入費はこの中から引かれるものと考えているが、システムの利用料や実際の運行費、オペレーター等の経費などは、年間を通して発生するものと考えている。
鈴木委員	・ システムの導入経費を提示してもらえれば、次年度以降はその分がかからないとわかるので、もし今数字がわかるようであれば、提示してほしい。
事務局	・ システムは、プロポーザルによって運行事業者を選定した後、その事業者に準備をしてもらうことを考えている。 市からはシステムを指定しないため、システムの導入経費等の数字は、持っていない。
議長	・ 予算上で見込んだ数字でいいのではないか。
事務局	・ 3,100万円のうち、3分の1ぐらいと見込んでいる。ただし、実際に3分の1となるかは、選定された事業者がどのシステムを使用するのかによる。
議長	・ 鈴木委員の意見のとおり、持続可能な公共交通という観点からすると、経費がどれぐらいかかってくるかは非常に重要だと思う。しかし、事務局の説明を聞く限り、料金設定をこれから行うため、具体的な額を算出できないというのもわかる。 収支については、料金を決めるときに議題になると思うが、事務局の説明から、3路線を廃止することによる削減効果と同等の金額で、行田市乗合型AIオンデマンド交通が運行できるならば、これが理想形である。 また、資料5のグラフでは、収支率が悪いことなども含めて総額を示しているが、この金額が絶対値ではないため、金額が上下することもあると思う。そこはこれから料金を考えていく中で、皆さんに協議いただくことでよいか。
鈴木委員	・ 1点だけ確認させてもらいたい。初期費用は、約1,000万円ということか。
事務局	・ つかみで約1,000万円である。
鈴木委員	・ 3ヶ月間の運営費やランニングコストが2,000万円。
事務局	・ 内訳としては、おそらく人件費がメインになると思う。
鈴木委員	・ その他、案内チラシ作成などの経費を加えて総額で約3,800万円ということによいか。 つまり、初期投資1,000万円は、次年度以降はかからないということであり、残りの2,000万円については3ヶ月分の4倍が1年間分で8,000万円に1,000万円を足して9,000万円が通年の広告費、助成費なしの額という理解でよいか。

事務局	筋としてはそのとおりと考えている。
鈴木委員	- 配られた資料から廃止する3線の経費、それから運行収入を差し引く。また、デマンドタクシーは3,000万円とすると、約7,400万円になり、年間の経費として考えられる1億円から引くと、2,600万円かかることになるが、ここを利用料金で2,600万円まかなうことができれば、現在と同程度の金額となり、さらに利便性が上がった分、行田市としては良いと考えているということでしょうか。 - ここまで説明があれば、「現時点で既に現行システムよりも支出が減り、これに加えて運行収入が入ることにより経費が削減できるため、利便性も上がることも含めて承認してほしい」という話であれば理解できる。ここまでの説明で違うところがあれば指摘してほしい。その上で判断したいと思う。
事務局	- 鈴木委員の言うとおりである。2年目以降も地域の皆様への案内等の経費は必要になると見込んでいるが、多額ではないと考えている。予算どおり、もしくは多少上振れたとしても、皆様に喜んでもらえるものを導入したいと考えている。 - 繰り返しになるが、収支率が低く利用が非常に少ない路線を見直して、その分喜んでいただけるものを導入したいと考えている。収益の改善については、先ほど議長の発言にもあったが、利用料金を含めて、運行が始まってからの宿題と考えている。
鈴木委員	約2,600万円については、運行日が何日間で、1日につき何人の利用を目指さなければいけないのかというデータが欲しい。あとのことについては、おまかせする。
議長	鈴木委員の意見はもつともであり、我々も持続可能な公共交通を考える上では、青天井の予算とはいかないと思っている。なるべくコストパフォーマンスの良い運行形態となる形で進めていくということで事務局よろしいか。
事務局	至上命題として考えていきたい。
明野委員	- 今の予算についてだが、プロポーザルを実施する場合、市の方から金額の目安が出る。そこから、運行経費などを含めてもう少し詰めた金額を出さないと、プロポーザルにならないと思うため、行田市として、しっかり積算をしていただきたい。 - 収支率についてだが、弊社は別の自治体2箇所でデマンドタクシーを運行しているが、県内の話を聞く限り、収支率は大体10%前後である。中には収支率が12、13%くらいのところもあるが、運賃が安い場合や高い場合で違ってくる。 これらから、大体10%前後が一つの目安になると思う。収支を考えると、それを一つの目安にしてほしい。
事務局	今後、プロポーザルの募集要領等を作成する上で、参考としたい。

議	長	・ プロポーザルを実施するにあたり、行田市側から上限額を提示する必要があると思うが、今回の行田市乗合型A I オンデマンド交通のプロポーザルでは、料金が全てではないということによいか。
事 務 局		・ そのとおりである。金額だけではなく、内容についても審査を行い、行田市にとってより良い適正な運行ができる事業者を選定したいと考えている。
議	長	・ 金額は、一番重要な部分であるため、今後、料金等を詰めていく中で詳細を示したいと考えている。 ・ 他にあるか。
田 沼 委 員		・ まず料金について、公共交通である路線バスの初乗りが200円、タクシーが500円であるため、運賃の設定は、これらの公共交通を圧迫しないように設定いただきたい。 運賃については、この会議の中では協議が図られず、運賃協議会の中で協議されることになるため、事前に伝えさせていただく。 ・ 次に運行時間について、11時間の運行とあるが、運行中における運転手の休憩時間などが設けられていないように思う。行田市乗合型A I オンデマンド交通を実施した結果、非常に好評で、運転手が休憩できないということがないようにしなければならないと思う。 ・ 最後にプロポーザルについて、運行予定の4台が全て1社のみが請け負うという形で考えているのか、それとも複数の会社で実施できるのか。
事 務 局		・ まず料金についてだが、ご指摘のとおり運賃協議会に諮り決定するものであるが、ご意見として承らせてもらう。 ・ 次に11時間運行における運転手の休憩時間は、法律に定められている運転手の休憩時間を確保しなければならないと理解している。そのため、システム等により運転手が休憩を取る時間は予約できないようにしたい。ただし、4台すべてが運行していない時間がないように休憩時間をずらして取得してもらいたい。 もう少し分かりやすく言うと、この11時間運行は法令で定められている休憩時間を含んだ11時間の運行である。ただし、運転手全員が「12時から13時まで休憩」というように運行時間が断続するような休憩時間の取得方法ではなく、何時から何時までと時間を指定せずに、運行状況に合わせて休憩を取得して、11時間の運行が継続できるようにしてもらおう形で調整していきたいと考えている。 ・ 最後に4台の運行について、1社のみ運行もしくは複数社による運行でもよいのかという点だが、これはプロポーザルにおける提案の一つの要素になってくるのではないかと考えている。プロポーザルにおいて提案してもらう事業者については、事業体としては一つと考えている。実際にあるかどうかかわからないが、複数の企業が一緒になって行田市のオンデマンド交通に協力してもらえるとという提案であれば、外見から見れば1社だが、中身は複数社が協力しあうという提案もあり得ると考えている。

議	長	田沼委員の意見は、バス1台に対して1人の運転手ということではなく、例えば、休憩時間を加味したときにどれだけの人件費がかかるかというところにあると思う。その積算は、今後詰めるということによいか。
事務局		11時間で運営していく中で、この時間帯での運行であれば、従事してもらう運転手は、4名で足りると考えている。指摘があった点を踏まえて、改めて経費の積算をしたいと思っている。
議	長	- 休憩時間を加味した中で、適正に人員を配置し、人件費を適切に見込んでいくことが大事だと思う。事務局からいろいろな数値が出たが、齟齬があつてはならないので、再び精査させていただき、後日、皆様に提示させていただきたい。 アウトラインの説明で恐縮だが、詳細については、皆様と一緒に詰めることになると思う。 - 本日については「行田市乗合型A I オンデマンド交通の導入」を導入すること、それに伴い運行事業者の選定に入ることの2点について、承認していただけるということでご異議はないか。 (異議なし)
議	長	- 異議なしと認める。 - それでは、行田市乗合型A I オンデマンド交通の概要と運行事業者の公募については、この内容で進めさせていただく。 - 本日の議事は以上となるため、これをもって、議長の職を解かせていただき、これからの進行を事務局にお願いする。 5. その他
事務局		- 次第5のその他について、事務局より次回の会議日程について説明する。 - 次回の会議は、7月上旬の開催を予定している。日程の詳細については、改めて連絡させていただく。 6. 閉会
司会		これをもって、令和6年度第1回行田市地域公共交通会議を閉会する。